

庄内協同ファームだより

No.139 2012年5月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



いこいの村庄内 チューリップ畑

田植えが終わり、庄内平野は緑のじゅうたんを敷いたような景色が広がって新緑の季節を迎えています。今年の春は 天候の良し悪しがハッキリした日が続きました。特に4月3、4日には台風並みの爆弾低気圧が庄内地方を襲い甚大な被害をもたらしました。夜は暴風で家が「ミシミシ」と揺れ眠れませんでした。朝起きて外に出てみると家の瓦が落ちていたり塀が壊れたりトタンが剥がされたりしてビックリしました。農業関係では特にハウスの被害が大きかったです。

ハウスのナイロンが破れたのは、まだ軽い方でハウスそのものが潰れて倒壊したり、パイプが抜けてひっくり返ったハウスもありました。ひっくり返ること自体初めて見る光景で大きなショックを受けました。春作業が始まりこれからと言う時だったので種まきが一週間ほど遅れてしまいました。



桜は大雪のため例年より遅れて開花しましたが、開花と同じ時期に気温が上昇し、あつという間に満開となり、あつという間に散ってしまいました。今年の桜は儂いものでした。その後は晴れの日が続き稲の苗は順長に生育し田植えとなりました。

田植えが終わると程なく鴨をタンポに放します。生まれて2週間位の手のひらに乗る可愛い鴨です。鴨は元気良くタンポを泳ぎ回り虫や草を食べしてくれます。見ていて飽きません。近くにおいでの際には見にきてくださいね。

さて、今年はどうな年になるでしょう。普段通りが一番です。

理事 今野 裕之

有機農業が作る

持続可能な社会へ

芳賀修一

3月24、25日の二日間、協同ファームメンバーと共に、原発事故による放射能汚染の実態を知るために、全国集会に参加しました。

初日午後から、郡山市磐梯熱海温泉にて、全国集会に参加し、翌日バスに分乗し、汚染地域となってしまった、南相馬市と飯舘村の現状視察を行ってきました。

全国集会には、有機農業団体、生協、学者、行政 生産者等、250人以上集まり、放射能汚染の実態や、食品の安全基準等の講演があり、「福島県農産物の風評被害の実態と今後の対策」のテーマでのパネルディスカッションが開催されました。

参加者の中には、山形県有機農業の先駆的实践者、星寛治さんや全国の有名な食の安全性を求め運動してきた方が見られ、放射能汚染への問題の大きさが感じ取られました。

集会では、有機栽培された農産物は放射能汚染が少ない傾向があるとの興味深い話しが出されました。

翌日、大型バスに分乗し避難地域に指定されている、飯舘村と南相馬市に向かいました。途中、住宅地は人影が見えず、

田畑に作物はなく異様な光景が目につきました。

飯舘村役場の担当者から村の復興計画について伺いました。

村内を汚染度合いより帰還困難地域、住宅制限区域、避難指示解除準備区域に分け、除染とインフラ整備を行い、村民一人一人の復興を目指すと言うもので、今後大変な作業が予想され、十分な政策支援と加害企業の補償が必要と思いました。

続いて、南相馬市に向かいました。途中海岸端の津波被害を受けた地域を通過しましたが、田んぼは大きな瓦礫は片付いていましたが、よく見ると作土の上には色々なゴミが混っており、何が出てくるかわからないので耕起も出来ないとのことでした。

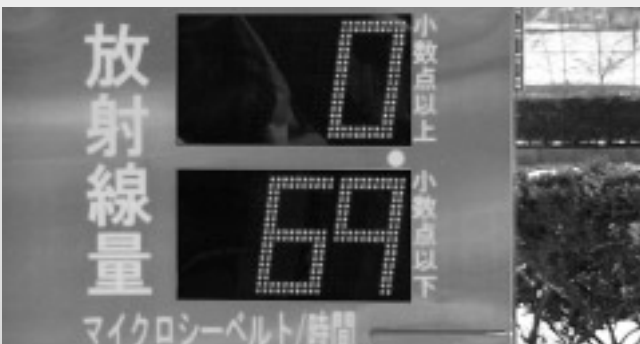
南相馬市は昨年、全体の作物の作付けを禁止する事になったとのことですが、安全が危険かは作物を栽培してみないと分からないと考え、実験的に作付けしている農業者があり、その中で、杉内氏の水田で除染目的で菜の花の栽培をしている圃場を見学しました。菜の花の品種は「キラリボシ」と聞きビックリ。この品種の種子は三川町の私達の組織から供給された物で、除染に役だってくれれば嬉しい限りです。

食の安全性に人生を掛けて実践してきた農業者が、何の責任もない放射能汚染という、理不尽な被害により、農産物の出荷どころか、生産も出来ない状況に追い込まれる悔しさと憤りを痛感しました。

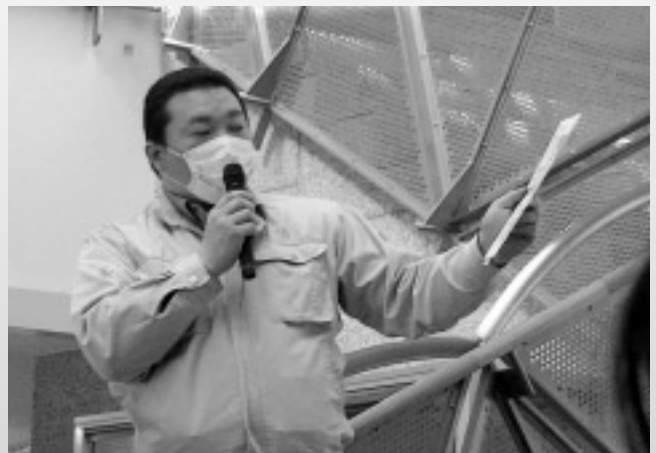
安全と言われてきた、科学技術の粋を集めて作られた原子力発電が、想定外とは言え、自然災害に脆くも破壊され、何の責任もない人々に被害を及ぼした今回の事故は、科学技術の限界を感じさせられ、第一に自然への畏敬の念が重要と思いきらされた集会でした。



南相馬市 杉内さん（放射能除染実験用菜種の栽培説明）



飯舘村役場前の放射能空間線量計
(0.69マイクロシーベルト表示、庄内では0.03~0.05)



飯舘村役場 杉岡さん（村の復興計画について説明）

商
品
紹
介

むぎちゃん



日本で有数の穀倉地帯のひとつである
庄内平野。

田植えが終わって、緑の絨毯が平野一面に広がっています。その中に部分的に金色に染まっているところがあります。季節的に場違いな感じを受けますが、それは庄内協同ファームの麦茶の原料に使われる大麦の圃場になります。

昨年一昨年と二年続けての不作にみまわれ原料不足でご迷惑をお掛けしておりますが、今年こそは豊作になるようにと願い、大麦生産者そして大麦自身も収穫のときを待っているところです。

ファームの麦茶は色合いは薄めですが、大麦本来の甘みが特徴の商品でもあります。是非今年もよろしく願い致します。

農薬を使わないで育てた大麦を特製の焙煎機で
ゆっくりゆっくり大事に煎りあげた自慢の麦茶です。



おい|しい|作|り|方

水2リットルに対してカップ1杯の麦茶を入れ、お湯が沸騰したら弱火で2～3分煮出していったん火を止めて5分程してからこして下さい。色は薄い感じですが甘く、香り高い麦茶が楽しめます。

有機農業に携わる生産者の総会が開催されました。 五十嵐 良一

まずは3月21日「山形県有機農業者協議会第6回総会」が小林亮会長(おきたま興農舎:高島町)より、有機農業の運動が社会的にもっと認知されるよう、遅々とした歩みでも具体的に形として、また、成果として残したい。そして、県行政に対しても具体的な施策を働きかけたい等の挨拶があり、議長、佐藤強氏(全国有機農法連絡会:天童市)を選出し、議事を進行しました。提案された第3号議案まで、満場一致で承認されました。役員は小林会長、志藤正一副会長(鶴岡市有機農業推進協議会:鶴岡市)、二宮隆一副会長(高島町有機農業推進協議会:高島町)は留任となり、加えて佐藤氏が選出されました。

総会閉会后には、県行政に対しての有機農業推進に関する申入書(要望事項6項目)に対する当局の考え方の説明や、山形県有機農業技術研究会での県の取り組み(有機栽培圃場での生物多様性オープンフィールドの事例)などの説明があり、話し合いがなされました。

また、行政当局より全県エコエリア構想と、平成24年度環境保全型農業直接支援対策事業についても説明がされ、県の姿勢が示されました。山有協申入書に関しては具体的な要望事項に沿って協議の場を設定し、方法を取りたいとの回答がありました。数少ない全県での有機農業者の集いは、次回再会を確認し解散しました。

ペンリレ 徒然草

五十嵐ひろ子

マダーローズの雨合羽



今年の我が家の田植えは、前半は雨の日が多くて、身体も少々疲れ気味。

雨が降れば当然、雨具を着ての作業となる。雨具＝雨合羽は、蒸れる、動きにくい、色が地味と、あまり楽しい要素は見当たらない。でも、私の雨合羽は、きれいなピンク。油絵の具の中に、似た色はないかと探してみたら、ピッタリなのは、ないが、マダーローズが近い。

今年遺暦を迎える私が、どつとしてマダーローズの雨合羽？それは簡単なこと。必要に迫られて農協に買いに行ったら、婦人物は、この色しかなかったのである。（ちよと派手かなあ）とためらったが、思い切つて買った。着てみるとなかなかいい。身体の中から元気が出てくる感じがした。

雨の日はあたりの木々や、草花の緑も一層鮮やかさを増す。そんな自然の中で仕事に精を出すマダーローズの雨合羽姿は、中身は六十歳でも、遠目に見れば三十歳の若



妻である。

そんな雨合羽に支えられつつ、後半は天候にも恵まれ、作業も順調に進み、明日からの紙マルチ田植えを残すのみとなった。

作業の合間にあたりを見渡すと、月山や鳥海山の残雪も、少しずつ小さくなっていくのがわかる。早苗が揺れる田んぼに、辺りの景色が映し出される庄内地方の美しい季節である。

さて、そんな景色の中を、小学校の集団登下校の姿を見ることがある。

我が家の孫娘も、新一年生、小さい身体にピッカピカのランドセルを背負い、上級生に見守られながら一緒に歩いて来る姿に安堵する。

この子たちが、安心して成長していける食べ物を、お米を作つていかなければいけないんだとあらためて思う。

明日からの紙マルチ田植え、そして近々鴨の雛もやってくるから忙しくなる。また、カラスや害獣と戦

うため、ぐすを張り、電柵を巡らす作業に追われる。

夫は、いつの間にか背広に着替え、出かけてしまうので、それらの一連の作業は息子と私の二人でやらざるをえない。息子の指示の元、ほぼ奴隷のように（笑）。明日からの紙マルチ田植え、風が無く天候に恵まれればいいなあと思う。

鶴岡市農家離職者等帰農・新規就農者支援事業

研修生 原田俊則



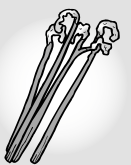
麦茶の焙煎中

庄内協同ファームでは、アルバイトとして働いておりましたが、今年の4月より農業研修生として新たに迎えていただきました。現在は、農業研修として組合員の方々の御宅にお邪魔させていただき、様々な農作業の実習をしております。

私は農業について何も知りませんが、汗をかきながら一生懸命に作業していきたいと思えます。

ファームでは、現在麦茶やきな粉の焙煎を行っています。まだ上手いかわからない場合もありますが、山口さんの指示の下しっかりと働いていきます。来年の3月いっぱいまでの研修生ではありますが以前にも増して精一杯頑張りたいと思えます。

あとがき



田植えを間近に控えた雨の日、液肥の散布の為に、柿畑へと向かった。美しかった山桜もすっかりと花びらを落とし、春の食卓を色どつたタラの芽や笹竹に替わつて、ふきやわらびが食べ頃を迎え、作業中の私の気をそそる。

村人が、かますでお金を分けるようになると、期待に胸ふくらませて挑んだこの柿畑の開墾事業から遥か四十年、農村に住んでも農業に就かない人々が増える中で、高齢化で止むを得ず、園地を手離す人が毎年ポツリポツリと出始めている。

丹精込めてりっぱに育て上げられ、長い歴史を刻んできた柿の木が、手入れする人を失い今年も又、三区画が伐採される運命にある。防除もせずに放置しておけば病巣になる危険をはらむからだ。南向きの斜面にある大きく揃った木々が立ち並ぶ園地をながめながら「これを切つてしまつのはもったいない。」と誰もが思いながら、今以上に栽培できる余力がないのが現状だ。

巡り来た春に、命を芽吹き始めた木々は、自分の行く末も知らず、日々勢いを増して葉を広げ、枝を伸ばし始めている。

複雑な思いで傍をトラックで通り過ぎる。

(東)